

新潟大学医歯学総合病院での IBD治療

～ 優れた総合消化器内科医を育成し、
新潟発の先進医療を開発する ～



消化器内科学分野の先生方

消化器領域をカバーし、適切な診療を
実践できる「総合消化器内科医」の育
成が使命と考え、取り組んでいます。
IBD分野では罹病期間の長期化に
伴う患者さんの高齢化やガン合併など



消化器内科学分野 教授
光学医療診療部 部長 栄養管理部 部長
寺井崇二 (てらいしゅうじ) 先生

地域医療に貢献する総合病院
当院は創立から100年を数える本
邦でも有数の伝統を誇る大学病院です。
新潟県内外に多くの関連施設を持ち、
連携のとれた医療体制を整えています。
そして、50年前に設立した第三内科か
ら連なる私たち消化器内科学分野(消
化器内科)では、肝臓や消化管などそ
れぞれの専門医がチームを組み、あら
ゆる消化器疾患に対する総合的な診療
に取り組んでいます。

新たな課題が生じ、医師だけではカバ
ーしきれない精神的・薬学的・栄養的
などさまざまなケアが求められます。
肝疾患領域では全国的に肝疾患コーデ
イナーター(※)の育成が進められて
いますが、これと同じように将来的に
新潟県の中で「IBDコーデイナーター
」として活躍できるスタッフの確立・
育成ができないかと検討中です。
さらに、患者さんが疾患に関する正
しい情報を取捨選択できるようフォロ
ーするのも私たちの役目です。HPな
どの情報コンテンツや啓発活動をより
充実させるための準備を進めています。

主治医に早めの相談を

IBDは慢性疾患であり、良い状態
を長く保つためには体のメンテナンス
をコツコツと続けることが大切です。
気になる症状があれば我慢せず、早め
に病院にかかって主治医と相談してい
ただければと思います。

啓発活動への取り組み



プロサッカークラブ「アルビ
レックス新潟」の試合中、3万
人の観客に対し、C型肝炎の
検査を促す呼びかけやピラ
配りなどを行いました。IBD
分野でも、今後このような啓
発活動を行っていただくと考
え、スタッフ同士で話し合い
を進めています(寺井先生)

消化器内科の取り組み

当科では「治せない病気」「診断のつ
かない病気」のふたつに取り組みこと
をテーマに掲げています。炎症性腸疾
患(IBD)は、現状「治せない病気」
に位置する疾患であり、既存治療はも
ちろん再生医療など新しい科学をベ
ースに診療・研究を行っています。

また、ここ新潟県から全国の中で活
躍できる優れた消化器内科医を輩出す
べく、若手医師の育成にも力を入れ
ています。消化器は消化管・肝臓・胆道・
膵臓などすべての臓器が連動し、消化
・吸収・代謝のサイクルを繰り返す中で
制御されています。そのため、消化器
内科の医師には各臓器を分けて診るの
ではなく、消化器疾患すべてを診療で
きる知識や技術が必要だと考えていま
す。特にIBDは内科治療の進歩によ
り大幅に広がる治療選択肢を十分に把
握し、柔軟に対応できるだけの基礎力
を備えなければなりません。あらゆる